

## 1 気象経過

### (1) 気温

5月の平均気温は、18.1℃（対平年差+0.6℃）と平年に比べ高かった。

6月の平均気温は、23.3℃（同+1.9℃）と平年に比べかなり高かった。

7月1～3半旬の平均気温は、26.6℃（同+2.2℃）と平年に比べかなり高かった。

### (2) 降水量

5月の降水量は、111.0mm（対平年比90%）と平年並であった。

6月の降水量は、77.5mm（同45%）と平年に比べかなり少なかった。

7月1～3半旬の降水量は、144.0mm（同98%）と平年並であった。

### (3) 日射量

5月の平均日射量は、20.8MJ/m<sup>2</sup>/日（対平年比113%）と平年に比べかなり多かった。

6月の平均日射量は、20.5MJ/m<sup>2</sup>/日（同119%）と平年に比べかなり多かった。

7月1～3半旬の平均日射量は、19.3MJ/m<sup>2</sup>/日（同125%）と平年に比べ多かった。

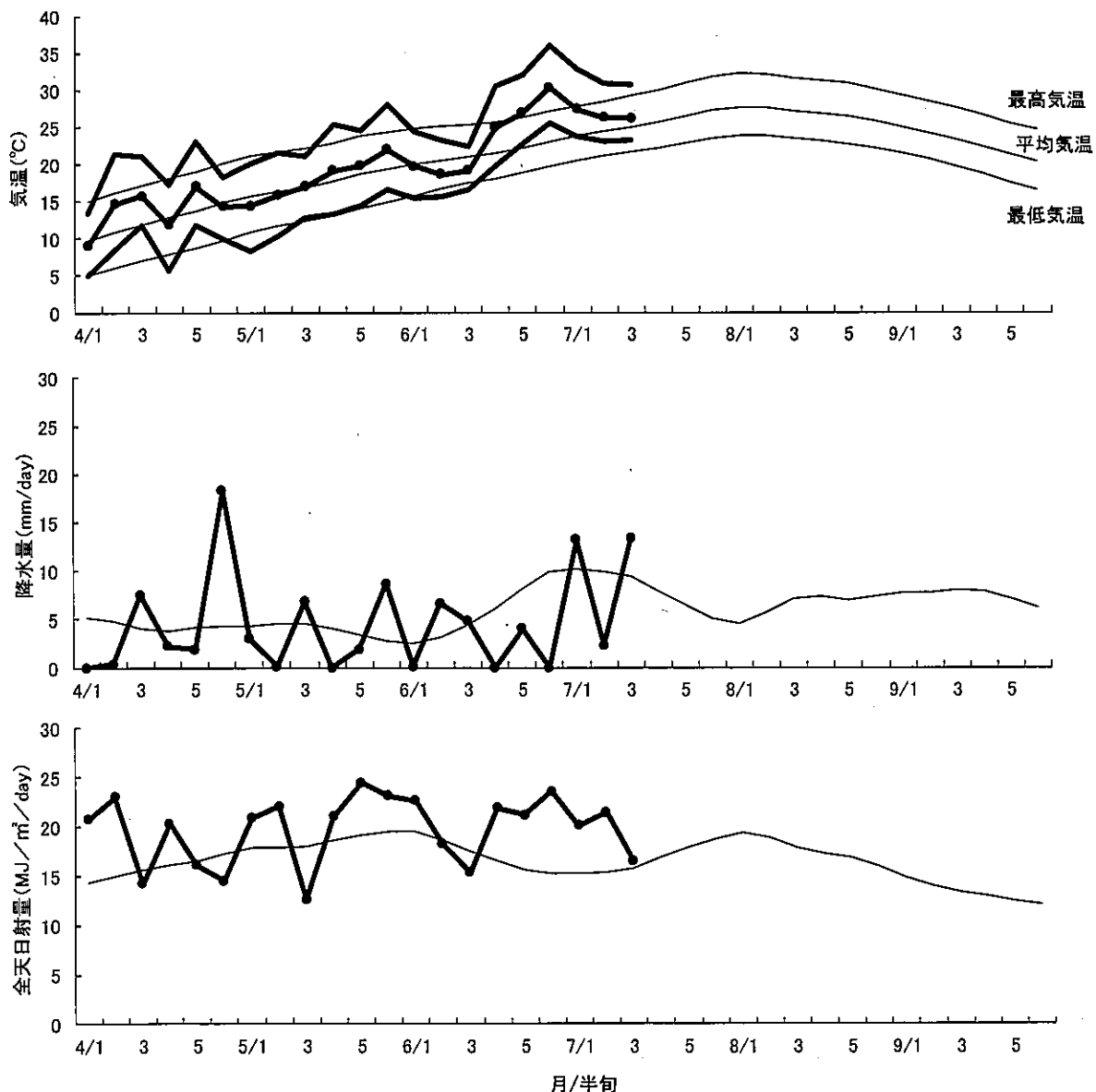


図1 令和4年の気象経過（富山地方気象台）

## 2 生育状況（生育観測ほデータ）

### (1) コシヒカリ

平年に比べ、草丈はやや長く、茎数、葉色は並、葉齢は進んでいる。

幼穂形成期は、平年に比べ3日早い7月8日となった。

今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より3日早い7月30日頃と見込まれる。

表1 「コシヒカリ」の生育状況（7月19日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色		幼穂 形成期	出穂期
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD		
R4	5月13日	89.0	21.3	469	13.4	4.0	32.7	7月8日	(7月30日)
R3	5月14日	85.7	21.2	456	12.8	4.1	35.0	7月13日	8月2日
平年	5月14日	83.6	21.3	458	13.1	4.0	32.6	7月11日	8月2日
前年比・差	-1	104	100	103	0.6	-0.1	-2.3	-5	(-3)
平年比・差	-1	106	100	102	0.3	0.0	0.1	-3	(-3)

注1) 平年 : H24~R3の平均

注2) 本年の出穂期は予測値

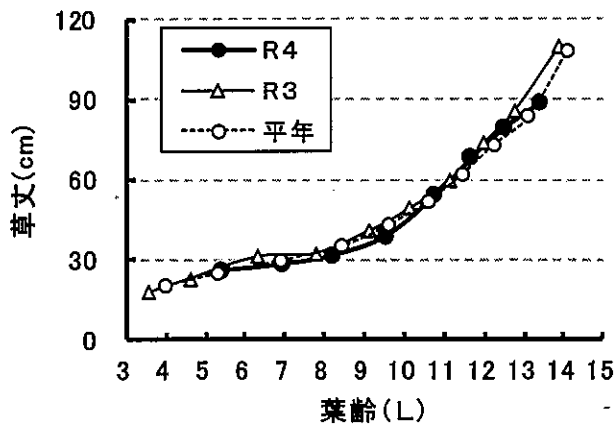


図2 草丈の推移（生観コシヒカリ）

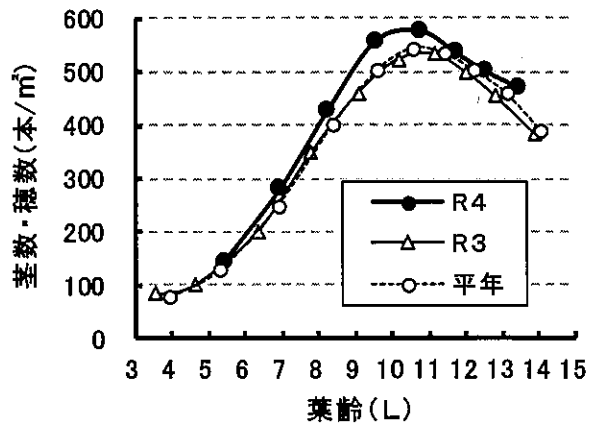


図3 茎数の推移（生観コシヒカリ）

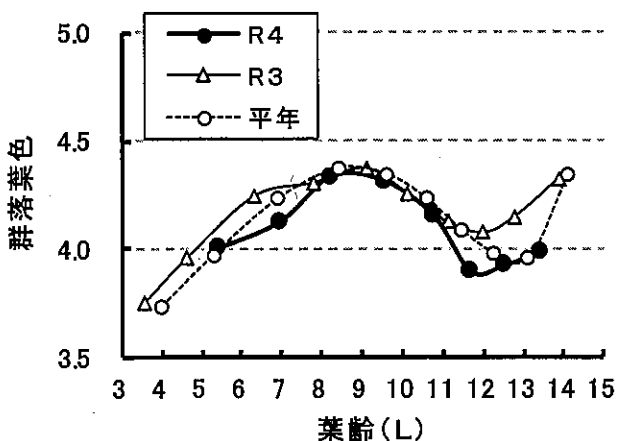


図4 葉色の推移（生観コシヒカリ）

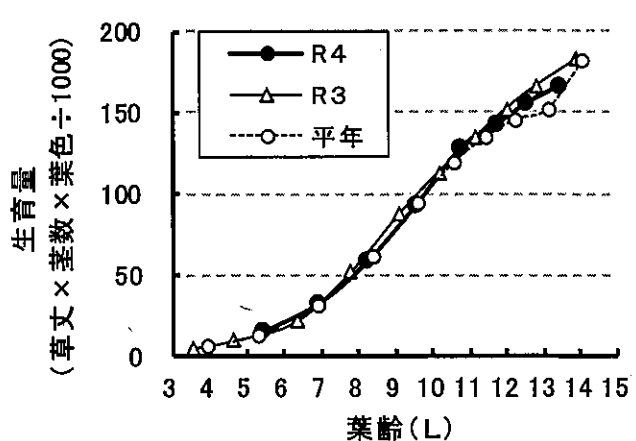


図5 生育量の推移（生観コシヒカリ）

## (2) てんこもり

平年に比べ、草丈、茎数、葉色は並、葉齢は進んでいる。

幼穂形成期は、平年に比べ1日早い7月11日となった。

今後、平年並の気温で推移した場合、出穂期は平年より1日早い8月3日頃と見込まれる。

表2 「てんこもり」の生育状況(7月19日 生育観測ほ)

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色		幼穂 形成期	出穂期
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD		
R4	5月8日	78.5	29.0	548	14.5	4.1	33.7	7月11日	(8月3日)
R3	5月9日	76.1	30.0	581	14.2	4.1	35.5	7月15日	8月6日
平年	5月8日	76.1	29.5	560	14.2	4.2	34.7	7月12日	8月4日
前年比・差	-1	103	97	94	0.3	0.0	-1.8	-4	(-3)
平年比・差	0	103	98	98	0.3	-0.1	-1.0	-1	(-1)

注1) 平年 : H24~R3の平均

注2) 本年の出穂期は予測値

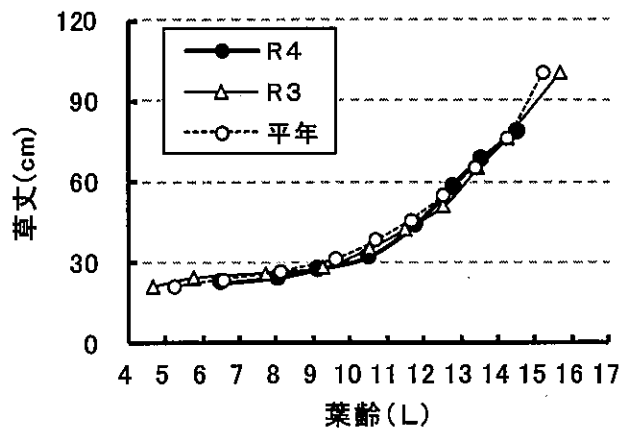


図6 草丈の推移(生観てんこもり)

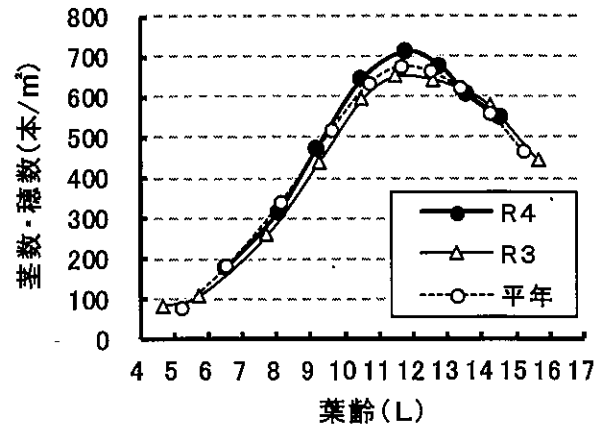


図7 茎数の推移(生観てんこもり)

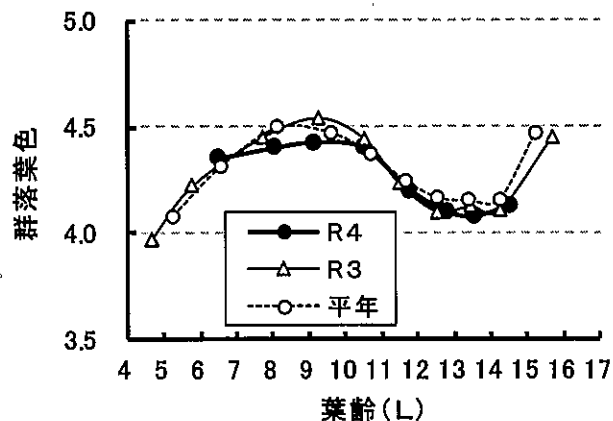


図8 葉色の推移(生観てんこもり)

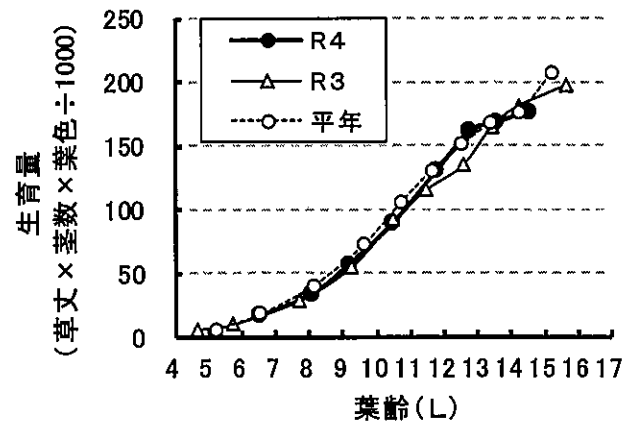


図9 生育量の推移(生観てんこもり)

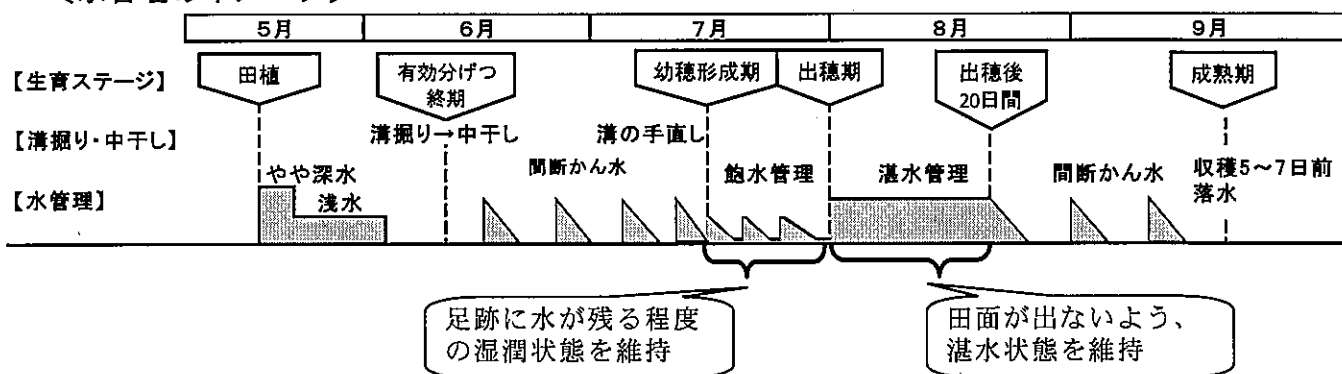
### 3 当面の技術対策

- ・ 出穂期までは稲体の活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・ 出穂後 20 日間は湛水管理を徹底する。
- ・ 「コシヒカリ」の肥効調節型基肥栽培では、出穂 7 日前頃までの葉色診断に基づいて追加穂肥を施用する。
- ・ 「てんたかく」の防除は、穂揃期（出穂後 3～5 日）と傾穂期（穂揃期防除の 7 日後）に確実に実施する。

#### (1) 「コシヒカリ」の管理

- ・ 今後も高温状態が続くと予報されているので、出穂期までは稲体の活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・ 出穂後 20 日間は湛水管理を徹底する。

#### <水管理のイメージ>



#### <肥効調節型基肥栽培>

- ・ 一部で葉色の淡いほ場がみられることから、出穂 7 日前（幼穂形成期から 14 日後、葉耳間長 0cm）に葉色が 4.0 (SPAD 値 32)、砂壤土では 4.2 (SPAD 値 34) 未満と淡い場合は、出穂 3 日前までに窒素成分で 1.0kg/10a 程度の追加穂肥を行い、穂揃期の葉色を 4.2～4.5（砂壤土 4.5）に誘導する。

地力の低いほ場は、稲体の活力が低下しないよう、適正葉色に誘導

表 3 「コシヒカリ」の出穂前の追肥対応（肥効調節型基肥栽培）

出穂 7 日前頃の葉色	追加穂肥対応
4.0 未満（SPAD 値 32 未満） ※砂壤土は 4.2 未満（SPAD 値 34 未満）	出穂 3～7 日前に N 成分で 1.0kg/10a
4.0 以上（SPAD 値 32 以上） ※砂壤土は 4.2 以上（SPAD 値 34 以上）	無し

#### <分施栽培>

2 回目穂肥は、1 回目穂肥の 7 日後に、1.5～2.0kg/10a を確実に施用し、穂揃期の葉色を 4.2～4.5（砂壤土 4.5）に誘導する。

(2) 「てんたかく」の管理

- ・ 5月1日移植の「てんたかく」の出穂期は、7月14日となった。
- ・ 今後、平年並の気温で推移した場合、成熟期は8月18日頃と見込まれる。
- ・ 出穂後20日間は湛水管理を徹底する。

成熟期が近年より早くなると見込まれるので、  
収穫・乾燥や荷受けの準備は遅れないように行う

表4 「てんたかく」の生育状況（生育観測ほ）

品種	年次	田植日	幼穂 形成期	出穂期	成熟期
	R4	5月1日	6月25日	7月14日	(8月18日)
	R3	5月3日	6月27日	7月17日	8月21日
てんたかく	近年	5月2日	6月24日	7月16日	8月22日
	前年比・差	-2	-2	-3	(-3)
	近年比・差	-1	+1	-2	(-4)

注1) 近年：R2、3年の平均

注2) 本年の成熟期は予測値

(3) 「てんこもり」の管理

- ・ 出穂期までは、稲体の活力を維持するため飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・ 出穂後20日間は湛水管理を徹底する。
- ・ 分施における2回目の穂肥は、幼穂形成期の10日後に、土壌条件に応じて1.5～2.0kg/10a施用し、穂揃期の葉色を4.3程度に誘導する。

(4) 病害虫防除の徹底

① 斑点米カメムシ類

- ・ 畦畔等における確認地点率は89.0%と近年並に高く、調査地点平均頭数は13.9頭と平年より多かった。
- ・ 早生品種の防除は、粉剤、液剤又は微粒剤体系とし、穂揃期（出穂後3～5日）と傾穂期（穂揃期防除の7日後）に確実に実施する。
- ・ 「コシヒカリ」及び「てんこもり」等の中晩生品種は、穂揃期の防除を徹底する。
- ・ 例年発生密度が高い地域や、防除後も水田内のすくい取り調査で侵入が認められる場合は、追加防除を行う。
- ・ 近隣に雑草地や麦あと不作付地等がある水田では、発生が多くなる場合があるので本田防除を徹底する。
- ・ 本田内のノビエやホタルイは、斑点米カメムシ類の侵入を招き、斑点米被害を助長するので、除草に努める。

②いもち病 ※平年の葉いもちの初発確認日 7月10日 (R3:7月15日)

- 7月11、15、17日にいもち病の感染好適条件がみられたので、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら速やかに防除する。また、穂いもち防除を確実に行う。

BLASTAM情報(葉いもち予測システム)HPのURL

[http://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/link\\_flat.phtml?TGenre\\_ID=314&t=pdf2](http://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/link_flat.phtml?TGenre_ID=314&t=pdf2)  
(農林水産総合技術センター農業研究所HPの研究関連情報に掲載)

③ 紋枯病

- 本年は6月27日に初発を確認している。(R3:7月1日、平年:6月23日)
- 前年多発したほ場で箱施薬剤を施用していない場合は、穂ばらみ期の粉剤、液剤防除を確実に行う。
- 「てんこもり」ほ場では、箱施薬剤を施用した場合でも出穂7日前に発病株率を確認し、必要に応じて防除を行う。
- その他のほ場では、要防除水準を参考にし、適期に防除を行う。

表5 紋枯病の防除要否判定時期(薬剤散布適期)と要防除水準

品 種	防除要否判定時期 (薬剤散布適期)	要防除水準 (発病株率)
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%
てんこもり	箱施薬無 箱施薬有	出穂7日前頃 出穂7日前頃 防除実施 15%(暫定値)

④ 稲こうじ病

- 常発地や前年に発生が多かったほ場では、出穂の10~15日前(銅剤は出穂の10~20日前)に薬剤防除を行う。

⑤ 着色米(斑点米を除く)、ごま葉枯病

- 登熟期間の高温や稲体活力の低下により発生が助長されることから、適正な施肥、水管理を行う。

農薬散布に際しては、周辺住民への事前の周知と農薬の飛散防止を徹底する。

# 「富富富」の生育状況と当面の技術対策について

## 1 生育状況（生育観測ほ等データ）

近年に比べ、草丈はやや長く、茎数はやや少なく、葉色は並、葉齢は進んでいる。

幼穂形成期は、近年より3日早い7月10日となった。

今後、気温が平年並に推移すると、出穂期は近年より3日早い8月1日頃と見込まれる。

表1 「富富富」の生育状況（7月19日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色		幼穂 形成期	出穂期
			(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )		葉色板	SPAD		
R4	5/16	79.0	22.1	467	12.9	4.2	35.6	7/10	(8/1)
R3	5/16	73.9	23.1	496	12.3	4.2	36.7	7/15	8/5
近年	5/15	73.1	23.5	505	12.6	4.1	36.2	7/13	8/4
前年比・差	0	107	96	94	0.6	0.0	-1.1	-5	(-4)
近年比・差	1	108	94	92	0.3	0.1	-0.6	-3	(-3)

注1) R4: 生育観測ほ、登熟向上収量安定化試験・対照区（合計8カ所）の平均

R3: 生育観測ほ、良食味栽培・対照区、密苗栽培・対照区（合計12ほ場）の平均、近年: H29~R3の平均

注2) 本年の出穂期は予測値

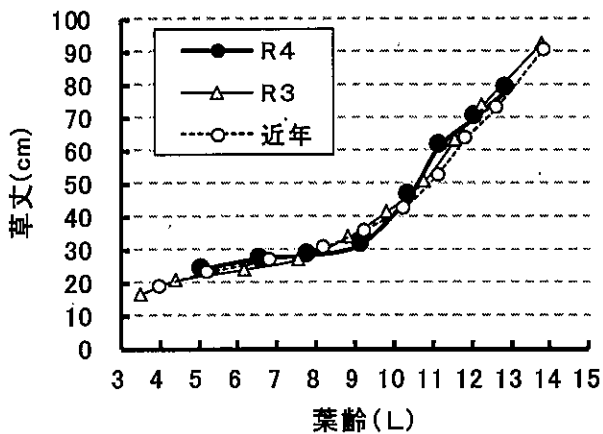


図1 草丈の推移（富富富生育観測ほ等）

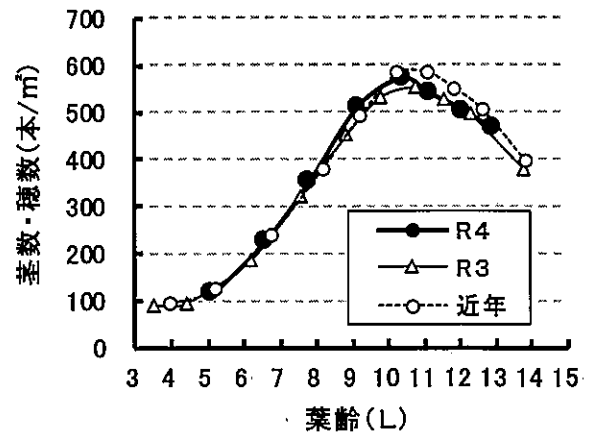


図2 茎数の推移（富富富生育観測ほ等）

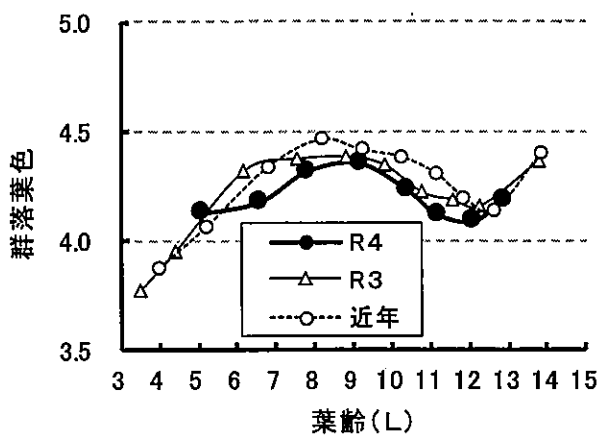


図3 葉色の推移（富富富生育観測ほ等）

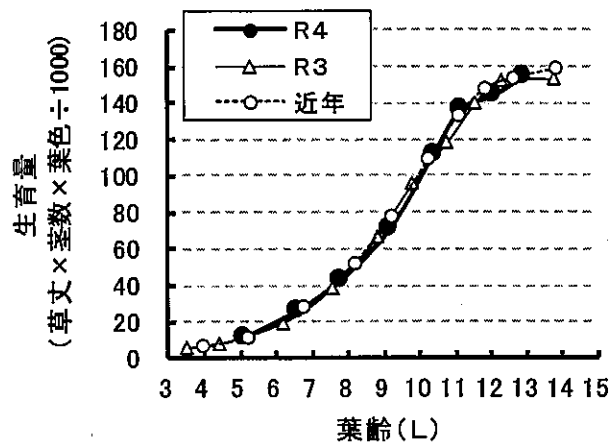


図4 生育量の推移（富富富生育観測ほ等）

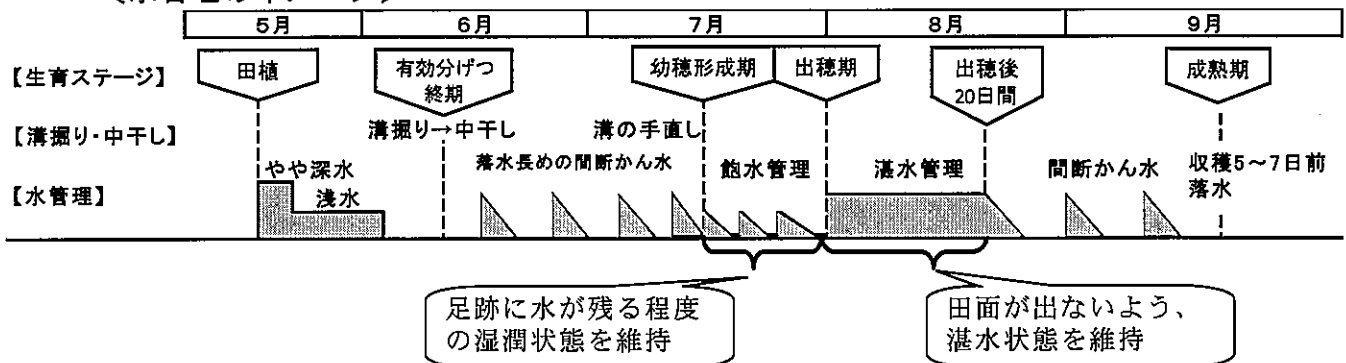
## 2 当面の技術対策

- ・ 出穂期までは稲体の活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・ 出穂後 20 日間は湛水管理を徹底する。
- ・ 肥効調節型基肥栽培では、原則、追加穂肥は施用しない。
- ・ 分施栽培では、2 回目の穂肥を確実に施用する。

### (1) 水管理

- ・ 今後高温状態が続くと予報されているので、出穂期までは稲体の活力を維持するため、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。
- ・ 出穂後 20 日間は湛水管理を徹底する。

#### <水管理のイメージ>



### (2) 「富富富」肥効調節型基肥栽培の管理

- ・ 原則、追加穂肥は施用しない。
- ・ ただし、幼穂形成期の 14 日後の SPAD 値 32 (群落葉色 4.2) 未満の場合は、出穂 3 日前 (走り穂が確認される頃) までに窒素成分で 1.0kg/10a 程度の追加穂肥を行い、穂揃期の SPAD 値 35 (群落葉色 4.4) に誘導する。

### (3) 「富富富」分施栽培における 2 回目穂肥

- ・ 1 回目の 7 日後に窒素成分で 1.5kg/10a を確実に施用する。ただし、1 回目穂肥を施用しない場合は、幼穂形成期の 14 日後に窒素成分で 1.5kg/10a 施用する。
- ・ ただし、2 回目穂肥を施用する時期の群落葉色が 4.2 未満の場合は、穂肥量を窒素成分で 2.0kg/10a 施用し、穂揃期の葉色を 4.4 に誘導する。

### (4) その他の管理

病虫害防除は、「コシヒカリ」に準じて実施する。ただし、生育期間を通じた化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるよう留意する。

穂揃期調査結果については、「てんたかく」は 7 月 26 日 (火)、「コシヒカリ」、「富富富」及び「てんこもり」は 8 月 9 日 (火) を目処に報告して下さい。  
また、「コシヒカリ」について、「穂揃期の抜株 (平均穂数・3 株)」をお願いします。